

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医 学） 氏 名 工藤 大樹

主査 教授 平野 聡
審査担当者 副査 教授 櫻木 範明
副査 教授 松野 吉宏
副査 教授 坂本 直哉

学 位 論 文 題 名

膵腫瘍性病変に対する 25 G 穿刺針を用いた EUS-FNA における通常圧吸引法と高陰圧吸引法の組織採取に関する多施設共同前向き無作為化研究

(High and low negative pressure suction techniques in endoscopic ultrasound-guided fine needle tissue acquisition using 25-gauge needles: A multicenter prospective randomized controlled trial)

膵充実性腫瘍性病変に対する検体採取方法として、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)は現在世界中で広く普及し、日常診療で用いられている。膵腫瘍の診断のため、時には組織診断学的な評価が求められ、EUS-FNA 時に組織学的診断評価に耐えうる検体を採取する必要がある。

本論文において著者らは、穿刺後吸引圧を加える際に通常使用するシリンジ(10ml)よりも大きいシリンジ(50ml)を使用し高陰圧を併用した EUS-FNA を従来の方法と比較することにより、高陰圧併用 EUS-FNA が、高い適正検体採取率をもたらすことを証明した。

論文審査において、本試験においては通常圧においても良好な組織診断可能な適正検体採取率を得られている点が既報と相違があり、手技的な要因があったのか否かという点と、なぜ太い針では穿刺成功率が低下するかの理由、通常圧併用下の EUS-FNA と比べて高陰圧併用の EUS-FNA は正診率に差がなく、高陰圧併用の意義をさらに強調するためには、解析対象はプレパレート上の視覚的評価ではなく、実際の細胞数量の計測をすべきではなかったのかという点、今回の臨床試験における改善すべき点、さらに EUS-FNA の成績向上と、非熟練者への手技普及のための新たな試みについてなど、種々の質問がなされた。

いずれの質問に対しても申請者は自らの研究課程での経験や過去の文献的考察を交えて概ね適切に回答した。EUS-FNA において多くの検体を採取することは、今後テーラーメイド治療などを検討する上でも日常診療に十分貢献できるものと考えられた。

審査の結果、これらの成果を評価し、大学院課程における取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を受ける十分な資格を有するものと判定した。